

事前質問	低視程時の性能評価について、雪は検証しているか。視程の変化が短時間で起こりやすく、また、Dry Snow、Wet Snow で着氷の種類が変わる。センサやブレードへの着氷も考えられる。
------	--

➤ **産業技術総合研究所 金様 回答**

降雪の検証を行ったことはある。雪がセンサカバーに付着することや寒冷地ではセンサが正しく機能しないことが課題となるため、模擬環境シミュレーション装置を開発してきた。また、日本で最大規模の人工降雪装置がある防災科学技術研究所（山形県新庄市）において、毎年1週間程度、視程やセンサの性能評価実験を実施していた。これにより降雪による低視程環境におけるセンサ性能評価に関する研究を進めてきた。

ReAMo プロジェクトにおいては、インフラ点検や災害対応といったユースケースを想定し、屋内の狭隘空間に焦点を当ててきたが、今年度からは、降雪環境も含む多様なユースケースの検討を進めている。

事前質問	災害時の飛行を想定した際、火山灰の影響は評価しているか。機体のブレードやモータ、センサ類の損傷、帯電による影響はあるか。
------	--

➤ **産業技術総合研究所 金様 回答**

屋外では火山灰のような微粒子の影響も大きな課題となるが、同様の問題は屋内にも存在する。例えば、古いトンネルや地下施設等の狭隘空間をドローンが飛行すると、長年蓄積した埃が舞い上がり、モータやセンサカバーに付着する問題が発生しうる。

そのような環境においてもモータやセンサが正しく機能するかを検証するべく、環境を再現する装置の開発に取り組んできた。また、火山灰のような微粒子がブレードやモータの摩耗、センサの視認性低下、帯電による誤作動等を引き起こす可能性もあるため、これらの影響についても留意している。今年度からは、火山灰や埃のような粒子環境も想定して、これらの影響を含めた検討を進めたい。

会場からの質問	「非 GPS 環境における自己位置推定機能の性能評価試験法の研究開発」について、成果として手順書を作成することのだが、具体的にどのような形で発行する予定か。
---------	--

➤ **産業技術総合研究所 金様 回答**

手順書案は意見交換会を通じて発行しており、最終版は NEDO 経由又は専用のサイトを立ち上げて発行することを想定している。

➤ **名古屋工業大学 佐藤様 回答**

（金様の回答への補足として）一部の手順書については、既に、実際に活用したいという声を頂いている。ウェブでの一般公開が適しているか、標準化団体での議

論を経て正式な規格として公表すべきか等、手順書ごとに適した形で公開できるよう NEDO と相談したい。今後の 2 年間においては、これまでの 3 年間で作成した手順書案を改善しながら公開方法を探っていきたい。

手順書案は日本語のため、英語化して国際的に普及させたいと考えている。